

# 意識の目覚め



# 意識の目覚め

「マエル・アウン・ベオール 意識の覚醒は、  
私たちが、自分自身を精神的な二元性、アン  
チテーゼの争い、知的な破壊の波から自分自  
身を自由に解放することによってのみ可能で  
ある。」

サマエル・アウン・ベオール

この論文の中の教義はすべて、宇宙の知恵の最も価値のある宝を  
収集、発表した現代人類学者であり哲学者であるサマエル・アウ  
ン・ベオール博士の講義、または著書より引用されたものです。

## 意識の眠り

賢明は、夕方の愛の星の前に葉を開く魔法の牧場の上ですばらしいバラの夢を見る。もじゃもじゃの髪を吟遊詩人の、銀に溶けて行く山に下りて行き、流れ、過ぎ去り金属のすかし細工に変わる、歌う恥ずかしがりやの小川の夢。不幸な母が戦争で亡くした息子の夢を見、それ以上の不運は想像できず、破れた至福について、彼の肖像画の横で泣く。光がそのような悲嘆と戯れ、各水滴の中の虹彩をも照らす。ファウストは、彼女の雪花石膏の金の小さな滝のように落ちる彼女の金髪の繊細な掛け布の下、彼のマーガレットの静かな白い顔を夢見る。彼女の不信な青い波の瞳孔の中にあるのは、なんという深い地獄だろうか！

哀れな知的な動物は痛みの恐ろしい爪の中で夢を見る。彼が、シーザーの心を千のかけらに破りさいたブルータスであり、軍を荒廃する、恐怖に怯えるスパルタカスであり、イタカの宮殿で激怒して彼の妻の求婚者を殺しているユリシーズであり、スキフ（小船）を足で拒絶している（\*訳注：ウィリアム・）テルであり、マーク・アントニーを誘惑しているクレオパトラであり、君主の苦悩を前にするコローンウェルであり、国のテーバーのミラボーであり、五つの解放された民族とともにいるポリバーであり、戦場のモレロスである、と。

愛する者が夢を見る。東から昇る輝く星の夢、待ち焦がれられたデートの夢、彼女がその手に持つ本の夢、彼女のロマンティックな窓の夢。気分を害した夫が、闇の戦いや荒れた反逆の夢を見る。彼ははげしく苦しみ、その悪夢の中で死にさえする。好色漢は汚れの泥の中を豚のように転がまわる女性の悪魔の下品な裸を夢見る。酒飲みは彼が金持ちで、若く、偉大な名声の勇氣ある紳士で、闘争における勇ましい男性である夢を見る。アマド・ナーヴォは彼の不動の愛する者と、レ・ミゼラブルのビクトル・ユーゴーを夢見る。この月の種類の（\*訳注：狂った）人生は、ただの夢の織物である。

ベダの聖地から来た年老いた賢者は、この世界はマヤ（幻想）であるといった際、彼らは間違っただけでなかった。ああ・・・！それらの哀れな人々が夢を見ることさえやめれば・・・。人生はどれほど異なるだろうか！

『私のチベットへの帰還』

人々は知性（インテリジェンス）をインテレクト（\*訳注：「インテリジェンス」と相対して、理解と体験なしに獲得された知識）と混乱し、とても知性的（インテリジェント）な人や非常にインテレクチュアル（\*訳注：インテレクト、知識のみを誇る）な人は非常に意識的であると言う。私たちは意識が、人の中でどんな疑いも越え、自分自身をあざける恐れもなく、精神的な活動全てから完全に独立した非常に特定の種の「内なる知識の理解」だと言う。意識の機能は私たちに、自らに関する知識に到達させてくれる。

意識は私たちに、そのものが何なのか、それがどこにあるのか、本当に知られていることと、確実に知られていないことについて、完全な知識を与えてくれる。

革命的な心理学は唯一、人自身が、自分自身を知ることができると教える。

ある瞬間に私たちが意識的かそうでないかは、私たちしか知ることができない。あなた、あなた自身だけが、自分自身の意識と、それがその瞬間に存在しているかどうか、知ることができる。

人自身、ほかの誰でもなくその人が、ある瞬間、ある時、その瞬間の前、その時の前に彼が実は意識的でなかったこと、彼の意識がぐっすり眠っていたということに気づくことができる。その人は後に、この経験を忘れるか、それを記憶として、もしくは力強い経験の記憶として貯めるかである。

理性的な動物の中の意識が、継続的でないもの、永久でないものであるを知ることが緊急である。

普通、人と間違っ呼ばれている知的な動物の意識はぐっすり眠っている。

意識が目覚めている時というのは珍しい、非常に珍しい。知的（インテレクチュアル）な動物は、完全に眠っている意識で仕事をし、車を運転し、結婚し、死に、彼が目覚めている時というのは非常に例外的な時だけである。

人類の人生は夢の人生だが、人は自分が目覚めていると信じ、彼が夢見ている、彼の意識が眠っているとは決して認めない。

もし誰かが目覚めることに成功したら、彼は自分自身のことをひどく恥ずかしく思うだろう。彼は即座に彼の愚かな真似、彼自身の馬鹿さを理解するだろう。この人生はひどく馬鹿げていて、ひどく悲劇的で、まれに崇高なことはほとんどない……。

平凡な戦いにおけるボクサーが突然目覚めたら、彼は名誉有る公衆を恥に思っ見、そのような恐ろしい見世物から逃げ、そして眠っいて無意識な大衆は皆、極めて驚くだろう。

人類が、自分が眠っっている意識を持っっていると認める時、あなたはその人がすでに目覚め始めていると確信できる。

意識の存在や、そのような言葉の有益性さえも否定する反応的な古風な心理学の学校は、最も深い眠りの状態を露にする。そのような学校の取り巻き連中は実は、低次の意識、潜在意識状態においてとてもぐっすり眠っっている。

意識を心理的な機能や思考、感情、運動衝動や感覚と混乱する者は、実に、本当に無意識である。彼らはとてもぐっすり眠っっている。意識の存在を認めるが、意識のさまざまな段階をきっぱりと拒否する者は、意識的な経験の欠如、意識の眠りの状態を露にする。

少なくとも一度瞬間的に目覚めた全ての人々は、個人的な経験から自分の中に存在する観察可能な意識のさまざまな段階をよく知っっている。

一番目：時間。私たちがどの位の間意識的でしたか。

二番目：頻度。私たちは何度意識を目覚めさせたか。

三番目：度合いと深さ。何に対して意識的だったか。

革命的な心理学と古代のフィロカリアは、意識は特種で偉大な超努力を通して目覚め、継続的でコントロール可能にすることができると主張している。

根本的な教育の目的は、意識の目覚めである。学校、専門学校、大学における十年や十五年の勉強は、もし教室を去る時に私たちが眠っっている機械だとしたら、無駄である。

偉大な努力を通して、知的な動物がほんの数分だけ自分自身に意識的であることができると言うのは大げさではない。

私たちが普通、ディオゲネスの灯籠を使っ探さなければいけない、まれな例外があることは明らかである。そのようなまれな場合は、真の人々によって代表される。仏陀、イエス、ヘルメス、ケツツアルクワトゥルなど。

これらの宗教の創始者は継続した意識を持っている。彼らは偉大な覚醒した個人である。

人々は通常、自分自身に意識的でない。継続的に意識的であるという幻想は、記憶と、全ての思考プロセスから生まれる。

人生全体を思い出す過去回想の演習を実施する人は、彼が何度結婚したか、何人子供がいたか、自分の両親、先生が誰だったかなどを思い出すことができる。しかし、これは意識の目覚めを意味しない。これは単に、無意識の行動を覚えているというだけで、それだけである。

一般的で通常的人生において、人類は自己意識に関して何も知らず、客観的な意識についてはさらに知らない。

しかしながら、人々はプライドが高く、彼らは皆、自分は自己意識的であると考えている。知的な動物は、彼が自分自身について意識的だと確信しており、彼が眠っていて彼が自分自身に無意識に生きていると言われても、どのような状況下であってもそれを受け入れることはない。

知的な動物が目覚めるという例外的な瞬間があるが、その瞬間は非常にまれである。彼らは大きな危険、急激な感情の間、新しい状況や新しい予想外の状況などにおいて起こることがある。

それらの意識のつかの間状態に全く支配力を持たないということ、それら呼び起こせないこと、それを継続的にできないことは、知的な動物にとって本当に不幸なことである。

しかしながら、根本的教育は、人が彼の意識に対してコントロールを達成することができ、自己意識を獲得することができることを確証する。

革命的心理学は、意識を目覚めさせる方法、科学的な過程を持つ。

もし私たちが意識を目覚めさせれば、私たちは検証し、勉強し、その私たちの道の上に現れる全ての妨害を消滅させることから始める必要がある・・・。

## 知識の問題

人々は高次の世界の偉大な現実を見、聞き、触り、感じたがる。人々は彼らの過去の存在を思い出し、神々と話したがったりなどする。しかし不幸なことに、人々はたった3パーセントの目覚めた意識と、97パーセントの眠っている意識を持ち合わせている。

内的世界の偉大な現実を感じたい者は誰でも、意識の目覚めを達成したい者は誰でも、一瞬一瞬死ぬことを決心しなければならない。それは必要不可欠である……。

まず私たちが、自分自身の中に複数の「我」を持っていることを知ることは緊急である。そのような「我」は、エジプトの神話のセト、ファラオの土地から来た古代の司祭たちが言ったように、赤い悪魔全体である。それらのエゴ、もしくは私たちが話したセトを人格化する地下の存在は、私たち自身の欠点の伝記上の特徴である。私たちの意識はそれらの存在それぞれの中に瓶詰めされている。それは捕えられ、牢屋に入れられ、眠っている。ゆえに、私たちの意識はそれ自身の瓶詰めに従って行動する。それは絶対に間違った方向に沿って動く。不幸なことに、それは利己的である。

もし私たちが（高次の世界を見、聞き、触り、感じるために。白兄弟結社のマスターたちと話せるようになるために）目覚めたければ、セト、エゴ、赤い悪魔、「我（複数）」を完全に破壊することが必要である。その方法によってのみ、意識は解放され、自由になり、根本的に目覚める。

『「存在」の知恵』

数え切れない偽の秘教的、偽のオカルト主義学校や本が存在する。そのような学校や著者がいたる所に多く存在し、お互いに戦っている。

パリのノートルダム大聖堂の中には、床に迷宮が描かれている……。クレタ島の迷宮を思い出そう。クレタ島のミノタウルスは迷宮の真ん中にいた。テセウスがその迷宮の真ん中に導き、

ミノタウルスがいるところまで到達し、彼と一騎打ちで戦い、彼を破ることに成功したと言われている。そのような迷宮を去ることは、彼を「最終的な解放」へと導くことができた「アリアドネの糸」によって可能であった。

そのようなすばらしい迷宮が、パリのノートルダム大聖堂の床に正確に描かれてあるということを知ることが興味深いことである。疑いの余地なく、これは全て、私たちに回想をすすめるものである……。

自分自身を導くということはたやすいことではない。理論の迷宮は死よりも苦い。呼吸のエクササイズは素晴らしいと私たちに伝える著者がいて、また別な著者たちはそれが害であると言う。数人があることを言い、また他の人たちは異なることを言う。それぞれの学校が真実を所持していると誇示する。迷宮は非常に難しい。

あなたが迷宮の中央まで到達することに成功したら、あなたはクレタ島のミノタウルス、つまり、あなた自身のエゴ、「我」、「私自身」、「自分自身」に対し一騎打ちで戦わなければならない。そしてあなたは、私たちを光へと導くべき「アリアドネの糸」によってのみ迷宮の中央から出てくることができる。

にもかかわらず、ほとんどの人々は多くの理論、多くの学校や多くの混乱の中で迷ってしまう……。自分自身を導くために私たちは何ができるだろうか。どのようにして。明らかに、私たちは意識の目覚めに関心を持つべきである。それによってのみ、私たちは神秘的な迷宮の中を首尾よく歩くことができるのだ。しかし、私たちが目覚めていない限りは、私たちは混乱しているだろう……。

それらの勉強に一瞬熱心にさえなる人もいるが、その後彼らはそれを去ってしまう。理論でいっぱいの中で、実は彼らはぐっすり眠っているにも関わらず、彼らがすでに秘密の道を発見したと信じている人もいる。

信じられないように思えるが、超越的な意味で真のグノーシスの革新的に目覚めた人々、完全に自己実現し（錬金術的言語において、「貴重な宝石」を所有する個人のことを言う）、しかし読み書きができない偉大な白ロジのマスターたちは存在する！彼らは絶対的に教養がないが、彼らは自己実現をして目覚めているのだ！

それと反対に、私たちは、人生の道の中で、さまざまな学校、組織、セクト、結社などの中で、理論で頭がいっぱいの人々、豊富な博学の人、しかしその人の意識は完全に眠っている。それらの人は、無知な「学んだ無知な者」であるだけでなく、さらに悪いことに自分の無知も知らないのである……。しかしながら質問をされると、彼らは確実に驚くべき博学と輝かしいマインド、独創的な概念、鋭く、結論的で決定的なことわざを示すが、それは何に役に立つのか……？

まず、私たちは、自分自身を導く方法を知るために目覚めなければならない。もし私たちの意識がまだ眠っていたら、文字で私たちの頭をいっぱいにすることが何の役に立つのか。私たちは教養がある方がよりよいが、目覚めた意識を持ちつつ、である……。

親愛なる友よ、私たちは生き方を学ぶ必要がある。なぜなら、私たち人類は生き方を知らないということが起こるが、それは非常に深刻な問題である。私たちは時間を測らない。私たちはこの肉体が永遠に存続すると考えるが、実はそれはほんの少ししか続かず、チリに変わってしまう……。

## 意識の四つの状態

意識を目覚めさせた者は誰でも、眠っている間に高次の世界の全ての不思議を学ぶことができる。意識を目覚めさせた者は誰もが、高次の世界に宇宙の完全に目覚めた市民として住む。その人はそして、白ロツジの偉大な最高司祭と共に住む。

意識を目覚めさせた者は誰もが、この物質世界においても内的世界においても夢見ることができなくなる。意識を目覚めさせた者は誰もが夢見ることがやめる。意識を目覚めさせた者は誰もが、高次の世界の有能な検証者になる。意識を目覚めさせた者は誰もが悟りを開いた者である。意識を目覚めさせた者は誰でもマスターの足元で学ぶことができる。意識を目覚めさせた者は誰でも、創造の暁を開始した神々と友好的な言葉で話すことができる。意識を目覚めさせた者は誰でも、その人の数え切れない転生を覚えていることができる。意識を目覚めさせた者は誰でも、彼自身の宇宙のイニシエーションに意識を持ってに参加することができる。意識を目覚めさせた者は誰でも、偉大な白ロツジの寺院で学ぶことができる。

『完全なる結婚』

人の意識の可能な状態が四つ存在する。睡眠、目覚めた状態、自己意識、そして客観的な意識。

親愛なる読者よ、一瞬、四階建ての家を想像してみなさい。間違っって人と呼ばれている哀れな知的な動物は、通常下の二つの階に住んでいるが、その人の人生において、上の二つの階を使うことは決してない。

知的な動物はその痛みのある惨めな人生を、一般的で現在の睡眠と、不幸にも間違っって目覚めている状態と呼ばれる、睡眠のもう一つの形に分けている。

肉体がベッドで眠る際、複数の月の体でおおわれたエゴが、その意識が眠った状態で夢遊病者のように分子の領域を通過して自由に動く。

分子の領域において、エゴは夢を投影し、その中に住む。その夢には論理が存在せず、継続性、原因、効果、全ての物質的機能は、あらゆる方向性なしに働く。主体的な想像、支離滅裂、あいまいで定義されていない情景などが現れては消える。

月の体におおわれたエゴが肉体に戻ると、基本的に単なる睡眠のもう一つの形である、目覚めている状態と呼ばれる第二の意識の状態がやってくる。

エゴがその肉体に戻って来ると、夢は内部で続く。いわゆる起きている状態は、実際、目覚めている間に夢見ていることで構成されている。

太陽が昇ると星たちは隠れるが、それらは存在し続ける。起きている状態での夢も同じである。それらは秘密裏に継続し続け、存在をやめるわけではない。

これは、間違っって人と呼ばれている知的な動物が夢の世界にのみ住んでいることを意味する。詩人がいい理由をもって、人生は夢であると言っている。

合理的な動物は夢見ている間に車を運転し、オフィス、工場、畑などで働く。彼は彼の夢に恋におち、彼の夢の中で結婚する。まれに、非常にまれに彼は人生において目覚める。彼は夢の世界に住み、彼は目覚めていると固く信じる。

四つの福音書は目覚めを要求するが、それらは不幸にも、目覚める方法については話さない。

まず、自分が眠っていることを理解することが必要である。誰かが、彼、もしくは彼女が眠っていると完全に気づいた時にのみ、彼または彼女は本当に目覚めの道に入る。

目覚めに成功した者は誰でも、自己意識状態になり、彼自身、彼女自身に対する意識を獲得する。

多くの無知な偽の秘道家や偽のオカルト主義者の最も深刻な間違いは、自己意識状態であることを自慢することや、全員が目覚めているというのに加えて、全員が自己意識を所有していると信じていることである。

もし全員が目覚めた意識を持っていたら、地球は楽園だろう。戦争もなく、私のものも、あなたのも存在しないであろう。全ては全員のもので、私たちは黄金時代に住むことになるだろう。

あなたが意識を目覚めさせたら、あなたが自己意識状態になったら、あなたが自分自身に対する意識を獲得したら、あなたは、自分自身に関する真実を本当に知る。

意識の第三の状態（自己意識状態）に到達する前には、あなたが自分自身を知っていると信じていたとしても、あなたは実は自分自身を知らない。

その家の四階に行く権利を得る前に、その家の三階に上るために、意識の第三の状態を獲得することが不可欠である。

意識の第四の状態、その家の四階は、本当に手ごわい。客観的な意識の状態、第四の状態を獲得する者だけが、自分自身の中で、物事のあるがまま、世界のあるがままを学ぶことができる。

その家の四階に到達する者は誰でも、疑いなく、悟りを開いた者である。そのような人は、直接的な体験を通して生と死の神秘を知っており、知恵を持ち、完全に発達した空間感覚を持つ。

完全な眠りの間、私たちは起きている状態のひらめきを見るかもしれない。起きている状態の間に、自己意識のひらめきを見るかもしれない。自己意識の状態の間に、私たちは客観的な意識のひらめきを見るかもしれない。

もし私たちが意識の目覚め、自己意識を獲得したければ、私たちは今、ここで私たちの意識に働きかけなければならない。私たちが意識の目覚めのために働きかけるのは、正確にここ、この物質世界においてである。ここで目覚めた者は誰でも、どこでも、宇宙の全ての次元において目覚める。

## 統括

- a) エカジア
- b) ピステイス
- c) ディアノイア
- d) ノウス

エカジアは無知、人の残酷さ、野蛮さ、極めて深い眠り、本能的、残虐な世界、低次の人間の状態である。

ピステイスは意見や信念の世界である。ピステイスは仮説、偏見、セクト主義、狂信主義、いかなる種類の直接的な真実の感覚も存在しない理論である。ピステイスは一般的な人類の意識である。

ディアノイアは信念の知的な訂正、分析、概念的な統括、文化的で知的な意識、科学的な思考などである。ディアノイア的思考は現象を研究したり、法を設立する。ディアノイア的思考は、それを深く、明確な方法で利用する目的で帰納的、推論的なシステムを研究する。

ノウスは完全に目覚めた意識である。ノウスは、完全な深い内なる覚醒、「トゥリヤ」の状態である。ノウスは本物の客観的な透視能力である。ノウスは直感である。ノウスは神聖な原型の世界である。ノウス的な思考は統括的、明確、客観的で覚醒している。

ノウスはエゴ、「我」、「私自身」の完全な不在を示唆する。ノウス的な思考の高みに上昇した者は誰でも、意識を完全に目覚めさせ、トゥリヤになる。

人の最も低次の部分は、合理的で主観的で、五つの一般的な感覚に関係する。

人の最も高次の部分は、直感と客観的、霊的な意識の世界である。直感の世界では、自然の全てのものの原型が発展する。

客観的な直感の世界に入った者、ノウス的な思考の崇高な高みに上昇した者だけが、真に目覚め、覚醒している・・・。

## ノウスの一例

この瞬間、ある異常なものの記憶がマインドに浮かんだ。17、8年前、私が連邦植民地の市場に、司祭である私の妻リテランテスと共にいて（私たちは、彼女が修理のために時計屋に置いてきた腕時計を取りに行きたかった）、私たちは突然、ダイナマイトの暴力的な爆発で揺れた。

リテランテスはかなり怖がり、私にすぐに家へ帰るようにと頼んだ。私の答えは率直に否定的であったことは明らかであった。起こることがわかっていた二回目の爆発に、私たちの生命をかけるなんて馬鹿げていた。

彼女の要求は無駄であった・・・。その瞬間、消防士のサイレンと鐘が鳴り響いた。

それらの敬虔で殉教的な人類の奉仕者は、その爆発が起こった場所に駆けつけた。「その出来事の劇場に入った消防士全員の中で、一人も助からない。彼らは死ぬ。」それは私の言葉だった。リテランテスは恐怖で黙っていた。

次の瞬間、第二の爆発がメキシコシティをひどく揺るがした。

結果は、その敬虔な奉仕者全員の死であった。彼らは自動的に崩壊し、死体さえも見つけられなかった。そこには一人の軍曹のブーツだけが見つけられた。

私はその消防士たちがいた無意識さの度合いに率直に驚いた。彼らが目覚めていれば、彼らが全滅することは決してなかっただろう。

私は今でも、その市場から逃げていた女性と、母親のスカートを恐怖で握っていた子供たちの叫び声を覚えている。

もし私が目覚めていなければ、私は明らかに消滅していただろう。なぜなら、私が家に帰るのに本当に必要だった貨物自動車を待っているべきだった場所で、何百人の人が死んだからだ。

私は今でも道の舗装の横に残された、新聞紙でおおわれ、横たわっていた多くの死体を忘れることができないでいる。

疑問の余地なく、それらの犠牲者は好奇心によるものであった。彼らは好奇心の高い人々、最初の爆発の後、その光景を見るためにその出来事の場所に行った、無意識で眠っている人々だった。

もしそのような人々が目覚めていたら、好奇心の高い人々のようにはその出来事が起こった場所には決して行かなかっただろう。不幸にも、彼らはぐっすり眠っていた。そうして彼らは死に出くわしたのである。

私たちがカラコル植民地の家に戻ると、隣人たちが警戒していた。彼らは私たちが死んだと思っていた。彼らは確かに、その大惨事の場所にあれほど近くにいたのにも関わらず私たちが安全に戻ったことに驚いた。それが目覚めていることの利点である。

## 目覚めの弁証法

ある人が、自分自身を覚えていることができない、自分自身に意識的でないということ完全を理解すると、その人は意識の目覚めに非常に近づいている。

私たちは、これについて非常に真剣に回想する必要がある。私たちがここで言っていることは大変重要で、もし私たちがそれを機械的に読んでいると、理解できない。

私たちの読者は、これについて回想すべきである。人々は、彼ら自身を観察している間、彼ら自身の「我」を感じる事ができない。彼らはそれを、ある中枢から別の中枢に通過させることができないのだ。

意識を目覚めさせるためには、私たちは、自分の話し方、笑い方、歩き方などを、自分自身を忘れることなく、内に「我」を感じながら観察しなければならない。これは難しいが、根本的な段階である。

偉大なマスターオースペンスキーはこう言った。『私が自分の「存在」に意識的になろうとする時、自分自身に意識的になろうとする時、自分自身に、私は歩いている、私はしている、この「私」の感覚を生き生きと保とうとし、それが中にあると感じようと努力した時、そのような努力は私の中で以下のことを引き起こした。私が「我」を捉えようとした時、私の思考は眠ったままであったこと、考えることも話すこともできなかったこと、そして感覚の強度が減少させた。その上、非常に短期間しかその状態を保てなかったのだ。』

『仏陀の首飾り』 サマエル・アウン・ベオール著

目覚めることが必要であり、そしてそれを達成するために、私たちはまず誠実に、私たちが眠っていることを受け入れなければならない。あなたが自分が眠っていると受け入れる時には、それはあなたが目覚めたがっているというサイン、症状である。それは、狂っている狂人に非常に似ている。狂人は誰も、自分が狂っているということを受け入れない。全ての狂人は彼らが大丈夫だと信じている。狂人が自分が狂っているということを受け入れたら、それは、彼が良くなっているという、間違いようのない兆候である。あなたは、これを狂った家の中で目撃できるかもしれない。自分が狂っていると受け入れる狂人はいない。反対に、狂った家を出る準備ができている狂人を観察してみなさい。彼らは自分が狂っていると受け入れる。彼らは自分が大丈夫でないと理解する。それは正確に、彼らがすでに回復してきているという間違いようのない兆候を示している。

同じことが、意識の眠っている人にも起こる。彼らは、自分が眠っていることを受け入れない。しかし、彼らが受け入れる時には、それは彼らが目覚めたい、もしくは彼らが目覚め始めている間違いようのない兆候である。にもかかわらず、それを知的に受け入れることが問題なのではない。そうではない。誰でも、自動的に「はい、私は眠っています。」と言うかもしれない。しかし、自分自身の眠りに意識的であることはきわめて異なることである。それゆえ、知性と意識の間には大きな違いが存在する。

しかし、私たちはそのような目覚めをどうしたら達成できるであろう。明らかに、私たちはすでに、基本的なことがエゴの溶解であることは知っている。それは疑問の余地がなく、あなたが気づいていない問題である。しかし、もちろん私たちはさまざまな方法

や手順によって自分自身を助けなければならない。私たちを目覚めさせる助けになるものは全て、役に立つ。

あなたに一つのテクニックを説明するが、とても注意して聞いて欲しい。注意力を三つの部分に分けることが必要である。

97パーセントの潜在意識と3パーセントの意識が存在する。つまり、私たちは97%の意識が眠っていて、目覚めている意識は3パーセントしかないと言うことができる。しかしながら、3パーセントの起きている意識にも達しない人もいる。彼らは通常、2パーセント持っていて、また、1パーセントしか持っていない人もいる。

しかし、もし私たちがそのようなことを意識の眠っている人に言うと、彼らはそれを信じようとしなない。彼らはむしろ、攻撃だと取るだろう。それを眠っている人に話すことは難しい。なぜなら彼らはあなたを信じないからである。彼らは、自分たちが目覚めていると考えているか、あなたが彼らを傷つけている、あなたが彼らを攻撃していると考ええる。

- 一、 主体
- 二、 客体、もしくは目的物
- 三、 場所

主体。私たちは自分自身を忘れてはならない。私たちは、毎秒、一瞬一瞬、自分自身を観察していなければならない。これは、私たちの思考、ジェスチャー、行動、感情、習慣、言葉などに関して、警戒状態で生きることを含む。あなたが自分自身を忘れた時に、あなたは人生において深刻な間違いを犯す。例えば、もし私たちがワインを飲む前に自分自身を忘れたら、結果はどうなるか？私たちはその一杯を飲むだけでなく、さらにたくさん飲んでしまい、酔っ払ってしまう。ゆえに、一杯のワインの前に自分自身を忘れることは非常に悪いことである。

異性の前で自分自身を忘れてしまったら、何が起こるだろうか。私たちは性の悪用者か、浮気者になってしまうのではないだろうか。

もし、例えば、私たちが侮辱者の前で自分自身を忘れてしまったら、私たちは明らかに、同じように侮辱してしまい、喧嘩までしてしまうだろう。

それゆえ、自分自身を忘れないことは必要不可欠である。例えば、ある夜、オースpensキーはセントペテルスブルグの通りに沿って、目覚めて歩くことを決意した（一般の、現代の人々がする「眠ったまま歩く」との区別して、「目覚めて歩く」と言う。）その人は自分自身を監視し、自分自身を観察し、また彼のマインドと感覚をコントロールしながら歩き続けた。その人はいろいろな所を歩いた。突然、彼はタバコを一本吸いたくなかった。彼は普段タバコを吸っていた。彼はタバコ店を見て、タバコを買いにそこに入った。彼が出てくる際に、彼はタバコを吸っていて、彼が実践していたプラクティスのことはもう覚えていなかった。彼はセントペテルスブルグのたくさんの通りを、家に帰るまで歩いた。彼が部屋に入った時、彼は自分自身を再び思い出した。そして彼は、痛みとともに、彼の意識がプラクティスを忘れ、彼がタバコ店に入った時に眠りに落ちて、多くの場所を真の夢遊病者のように歩き回っていたことに気づいた。

自分を忘れないことがどれだけ難しいかわかるだろう。私たちが「自分自身を忘れない」という時、何について言っているのか？私たちは、自分の気分、自分の内なる衝動、自分の悲しみ、自分の感情、自分の直感、自分の癖などを自己観察しなければならないと言っているのだ。私たちは、自分の感覚と自分のマインドを監視しなければならない。なぜなら私たちが自分の感覚と自分のマインドをコントロールしなければ、私たちの意識は眠りに落ちてしまう。

客体：私たちは、感覚を通してマインドに来るすべての客体や表現を注意深く観察しなければならない。これは鍵の二つ目の側面である。例えば、もしあなたが美しい物（\*訳注：客体）、スーツ、指輪、香水、店のショーウィンドー、何でも見る場合、あなたはあなたが見ている物（\*訳注：客体）に惹きつけられていたら、常に起こることは、あなたの意識が眠りに落ちることである。なぜか？なぜならあなたは自分自身を忘れたからだ。あなたが客体を見る時、あなたはそれに同一視し、哀れな意識はぐっすり眠りに落ちる。

私たちは、私たちの環境、私たちの周囲にある物を、それに魅了されることなく観察しなければならない。私たちが自分自身を決して忘れてはいけないということを理解することは急を要する・・・。

ある車はとてまかっよく、速いかもかもしれない。ある映画はとてま刺激的かもかもしれない。ある家はとてま豪華かもかもしれない、そう、しかしなぜ私たちは自分自身を忘れてはいけないのか？なぜだろう？

通常、私たちが私たちの環境にある客体を見る時、そこには眠りの過程が存在する。見てみよう。

1. 同一視 あなたは自分自身を忘れ、ある客体と同一視する。催眠的な力が感覚を捕らえ、私たちの注意をすべてその場所に向ける。そしてあなたはこう言う。「なんて美しい、なんて素敵な、なんて立派なんだろう・・・。」

2. 魅了 あなたはその客体に魅了される。もしそれが立派なスーツだったら、あなたはこう言うだろう。「この色は、私に一番ぴったりのものだ。これを着ていたらどれだけ賢く見えるだろう。もしお金があれば、これを買うのに、などなど。」

3. 眠り そのような強力な魅了、誘惑、目がくらんだ状態は、疑問の余地なく意識のぐっすりした眠りに導く昏睡や眠気を引き起こす。そしてあなたはそのスーツの美しさ、最初にそれを着ていくパーティについて、それを見せる美しい女の子についてなど、夢見始める。

全ての種類の同一視は魅了と睡眠を引き起こす。あなたは通りを歩く。突然、あなたは大統領の屋敷の前で何かに抗議している大衆に出くわす。もしあなたが警戒の状態でなければ、あなたは群衆に同一視し、魅了され、そして眠りが来る。あなたは叫び、石を投げ、別の状況下だったら百万ドルのためにもしないようなことをする。

自分自身を忘れることは計算不可能な結果を伴う間違いである。何かに同一視することは愚かさの骨頂である。なぜならそれは魅了と睡眠におちいるからである。

もし私たちが自分自身を忘れたら、もし私たちが何かに同一視したら、私たちは意識を覚醒させることは不可能である。

志願者は、もし彼が魅了されるがままになり、眠りに落ちてしまったら、意識を目覚めさせることは不可能である。

あなたは都市の公共交通機関に乗ってどこかに旅行している。あなたはある通りで乗り物を降りなければならない。あなたは、何故かわからないが、愛する人の記憶がマインドに浮かび、あなたはその記憶に同一視してしまう。あなたは魅了され、そしてあなたは目覚めたまま夢を見始める・・・。突然、あなたは驚いて叫ぶ。「私はどこにいたんだ。なんてこった！・・・あの通りを過ぎてしまった・・・。あの角、あの通りで降りなければならなかったのに・・・。」あなたは自分の意識がそこになかったことに気づく。あなたは乗り物を降り、降りるべきだった角まで歩いて戻る。

場所。最終的に、あなたは全ての場所、よく知られた場所でも、注意深く観察しなければならない。絵を描く部屋、寝室、私たちはそれらをまるでそれらが新しいもの

のように観察しなければならない。どこに行っても、あなたが自分自身に言わなければならない最初のことは、「さて、私はどこにいるのだろうか。この場所に私は何の関係があるのか。なぜ私はこの場所、この市場、このオフィス、この寺院などに来たのか。」もしあなたが、ここでだけではなく高次の世界で意識を目覚めさせたければ、それは必要不可欠である。

この要素（場所）の中に、私たちは次元の問題を含めなければならない。観察している瞬間に、実際に自然の第四次元、第五次元にいる、ということが起こるかもしれない。

自然は七つの次元を持っていることを思い出そう。三次元の世界においては重力の法が統治する。自然のさらに高次の次元においては浮上の法が存在する。私たちがいる場所を観察する時、私たちは自然の七つの次元の疑問を決して忘れてはならない。そうすると、自分自身にこう聞くことが役立つ。私はどの次元にいるのか。そして物事を証明する目的で、周囲の場所の中で浮上するつもりで可能な限り長いジャンプをすることが必要である。

もし私たちが浮いたら、それは私たちが肉体の外にいることを意味する。私たちは、肉体が寝ている際、月の体の中のエゴと「本質」が、分子の世界の中の夢遊病者のように無意識に歩き出すことを決して忘れてはいけない。

この瞬間、私が経験した非常におもしろい体験が私の記憶に浮かんだ。何年か前私がある家に到着し、美しい庭を横切り部屋の敷居をまたぎ、そして事務所、法律事務所に入った時に起こった。私は机の前でとても賢い女性に会った。彼女は私に接客した。突然、私が彼女と話している際、私は机の上に二匹のガラスの蝶を見た。それらはとても美しかったが、私が最も驚いたのは、それらの蝶が自らの生命を持っていたという事実である。それらは羽根と触角を動かし、そしてそれらはガラスでできていた。そしてそれらは他の蝶のように息さえしており、それらはガラスでできており、複数の色をしていた。

そして私は自分に言った。「そのガラスの蝶がこの全てのことをして、自ら生命を持っているということが、どうして可能なんだろうか。明らかに、この種の現象はアストラル世界のみで起こる。なぜならこれは物質世界ではきわめて不可能だからだ。」私は自分の周りを見渡し、自分に言った。「この場所、この法律事務所で私は何をしているのだろうか。」その女性は私と親切に話していた。私はその女性に、一瞬部屋を出る許可を申し出た。彼女は親切に、私に外に出る許可をくれた。私が外にでると、私はこう言った。「私は実験をする。さて・・・」そして私は、その周囲の場所の中で浮上するつもりで小さなジャンプをした。私は確かに浮いた。そして私は自分に言った。「私はアストラル体の中にいる。」私はその事務所に戻った。私はその机の前に座った。その女性はそこで私を待っており、私は彼女にこう言った。「私はあなたに、この瞬間、私たちはアストラル体の中にいるということを知って欲しいんです。思い出してください、あなたは数時間前に寝て、今、あなたの体はベッドの上に横たわって眠っています。」私はその女性から賢明な言葉を待っていたが、私が彼女の中に見たのは、夢遊病者の目であった。明らかに、彼女の意識は完全に眠っていた。彼女は私が彼女に話していた言葉の一つも理解しなかった。さて、その後、その女性の睡眠のとても深い状態を考慮して、私に何をしたらろう。私は去り、彼女に別れを告げ、そしてカリフォルニアを目指して行った。私はその州でいくつかの調査をする必要があったのだ・・・。

その途中で、私はだいぶ前に死んだある男性に出会った。彼は背中に重い俵を運んでいた。彼はある市場で重荷の担ぎ手だった。その哀れな男性はだいぶ前に死んでいたが、彼は自分がまだ生きていると考えていた。私は彼に近づき、言った。「友よ、ど

うしたんだ、なぜおまえはそんな重い積荷を背中に背負っているんだ。答えは、「働いてるんだ。」「でも、何を言うんだ、友よ。おまえは、自分がすでに死んだこと、おまえが背中に乗せて運んでいる俵が、自分で作り出した精神的な形状だと気づかないのか。」彼は私のことを理解しなかった。彼も、私のことを夢遊病者の目で見ただけだ。彼は私が彼に行っていることを一言さえも理解しなかった。私は浮いて、彼、彼の頭の周りを回り、それで彼が理解するかと思ったが、すべては無駄だった。彼は何も理解しなかった。彼はぐっすり眠っていて、そして哀れな男性は人生において、意識を目覚めさせることを何もせず、眠ったまま、彼の意識は眠ったままだった。私はカリフォルニアに向けて私の旅を続けた。私は調査をしなければならず、私はそれを行った。それらは、いくつかの学校などに関する調査だった。そして私は自分の肉体に戻った……。

私はまた、四十数年前、私に起こったとてもおもしろいケースを思い出した。私はある部屋で、私自身を見た。私はあるグループの人々の中でいて、秘教的なことを話していた。しかし、第一に、私は決して自分自身を忘れないので、また第二に、私は見たものの全ての詳細を観察することが好きで、また第三に、私はどこでも無意識なままでいることはなく、それを詳しく観察し、自分自身に、「なぜ私はここにいるのか。私はこの場所で何をしているのか。」と聞くため、その状況では、それらの注意力の分割の三つの要素が働いていることは明らかだった。ゆえに私は自分にこう言った。「さて、私はここで何をしているんだ。」私は忘れず、その場所を見た……。

「私は何をしているんだ。」私は周りの人々を見た。「なぜ私は彼らと話しているんだ。」それらは全て具体的、物質的に見えた。率直に言って、客体は普通だった。しかしながら、私は自分自身にこう言った。「なぜ私はここにいないかならなければならないのか。なぜこの会議、私は予約をしたのか。」全てが、とても具体的、とても物質的で、私の質問が場違いのように思えた。

私がアストラル世界にいるということを示す詳細は何もなかったが、直感的に、私は常に私の注意を主体、客体、場所の三つの部分に分けていた……。私は何をしたか。私はまた許可をお願いした。私は、トイレに行くとか、ちょっと新鮮な空気を吸いたいたいと言った。私がすでにその部屋の外にいた時、私は浮上するつもりで長いジャンプをした。そして、私はその周りの場所の中で確かに浮いた。私はその部屋に戻り、また同じ椅子に座り、出席していた人たちに話しかけた。「私の友よ、私はここにいる全ての人に、私たちがアストラル体にいるということを伝えなければならない。」彼らは皆、驚いて私を見た。そして彼らの何人かは秘教主義、オカルト主義を物質世界で勉強していた。しかしながら、彼らは私の言っていることを理解しなかった。彼らは、自分自身を見て、彼らの一人が私に言った。「いや、私たちは物質世界にいる。あなたは狂っている。なぜ私たちがアストラル世界にいるなんて言えるんだ。」私は彼らに言った。「そうだ、私たちはアストラル世界にいる。」しかし、彼らの誰も、私のことを信じたがらなかった。私はその部屋を出て、そして秘教的な調査をする目的である場所に行った。そして、私は自分の肉体に確実に戻った……。しかし、私がどれだけ目覚めていたかわかるだろう。注意力を三つの部分、主体、客体、場所に分割することによって。

そうして、私はこの注意力の分割を正しく実践するために、あなたは一秒一秒、一瞬一瞬、それが癖になるまで、それが本能的になるまで実践しなければならないことを明らかにしておきたい。最初に、また長い間、あなたがそれを本能的にする日まで、これを厳しい秘教的な修練の下で実践することが必要である。そうすると、起きている状態の時に実践されたそのようなエクササイズが起り、潜在意識の中に堅く登録され、その後、眠っている時間の間に自動的に機能する。

あなたは多くの時、日中に自分に起こった出来事の夢を見ているとうことを完全に見たことがあるはずだ。あなたが大きな心配事を抱えていて、それについて夜、夢見るということも起こるかもしれない。私たちがこのマインドの側面に意識をすれば、このエクササイズを強化的に行うことをが役に立つ。そのようなエクササイズをすることに慣れると、それは睡眠時間中、自動的に繰り返し、そして意識の目覚めに至る。

睡眠時間中、ソウル（魂）、もしくはもっと正確に、心理（エゴの中に詰め込まれた私たちの意識）が肉体の外にいるのを見つけることを知ることは役に立つ。あなたはそこで、物質世界と同じ方法で住むが、あなたは自分がどこにいるか気づかない。もしあなたがちょうどその時にそのエクササイズを実践すれば、その結果は意識の目覚めである。あなたが目覚めると、あなたは地球上のどの場所にでも行けるだろう。神秘の神殿に行くことができるだろう。言葉に言い表しがたい「存在」を呼び起こし、彼らと面と向かって話し、偉大なマスターたちから直接的に指示を受け取るかもしれない。

質問。マスター、私たちが眠りに落ちる瞬間にも、私たちは同じ指示に従うべきですか。

回答：あなたが眠りに落ちる際、あなたの部屋を厳密に観察し、自分自身にこう言うことが当然好都合である。「これは私の部屋だ。これらは私のもので、天井はこれこれの色に塗られている。部屋はこの別の色だ・・・」すべての物体、その形、その色などを厳密に観察し、自分自身にこう言う。「もしこの瞬間の後に、私がほかの場所に出現したら、例えば通りや仕事場、その他の場所どこでも、それは私がアストラル体にいるということのサインで、私は自分を思い出す。私は思い出す、私は思い出す・・・そして、私は浮き上がるつもりで小さなジャンプをする。私はそれをする、私はそれをする、私はそれをする！」

このエクササイズを眠りに落ちる半時間から一時間か前に行い、もしあなたがそれを注意を三つの部分－主体、客体、場所－に分けるプラクティスと合わせたら、あなたが意識の目覚めを非常にすばやく達成できることを、私は確信する。

あなたが朝、通常の睡眠の後、肉体が起きる際、あなたはベッドに静かにとどまらなければならない。動いてはならない。なぜならあなたの精神があらゆる動きで揺り動かされ、記憶が失われてしまうからだ。あなたはベッドに静かにとどまり、そしてあなたが歩き回った場所、あなたが話しかけた人、自分がいた意識の状態（眠りか覚醒のどちらか）などを注意深く思い出すために、過去回想のプラクティスをしなければならない。思い出すことができたまさにその記憶が、あなたが覚醒していたかどうか、またどの程度していたかを示す・・・。

## 人類の同一化

私たちは死を忘れてはならない。いい理由を持って、「ラ・カルトゥヤ」（スペイン）の僧侶たちは非常に特別な挨拶をする。「兄弟よ、私たちは死ななければならぬ。」そして、他の僧侶は答える。「兄弟よ、私たたちはそれをすでに知っている。」

これは、彼らがお互いに会った時に、いつでもする彼らの挨拶である。「兄弟よ、私たちは死ななければならぬ。」「兄弟よ、私たたちはそれをすでに知っている。」

私たちは肉体の死に関心がない。私たちは、家を去る時、いつでも、私たちのまさにその家でも肉体を失う可能性がある。私たちはベッドから床に落ちたりするかもしれない。私たちが関心があるのは、「我」、私たたちを恐ろしいものにする、私たたちが内に抱える「我」の死である。

もしあなたが目覚めていたら、あなたは私が言っていることを証言できるであろう。「我」を持つすべての人々によって生まれる放射線は、ドラキュラ伯爵のものと非常に似ている。それらは邪悪である。私が例えば一人で瞑想している時、「我」を持つ人が近づいてきたら、私はその人の波動を遠い距離から感じることができる。それらはドラキュラ伯爵のものと同じだ。不快、邪悪、左・・・。

「我」は私たたちを本当に、言葉の最も完全な意味で、汚す。ゆえに、あなたが「我」を消滅させることに成功したら、私たたちが内に抱えている全ての非人間的の絶滅に成功したら、そうすればあなたは根本的に覚醒、百パーセント覚醒する。それは明らかである。

「意識の目覚め」 サマエル・アウン・ベオールの講義

最も重要なことは、存在の状況と自分を同一視しないことである。人生はまるで映画のようで、それは実は、始まりと終わりのある映画である。マインドのスクリーンをさまざまな場面が横切り、私たたちの最も深刻な間違いはそれらの場面と同一視することにある。なぜか？なぜなら、それらは過ぎ去るからである。それらはただ過ぎ去るからである。それらはすばらしい映画の場面であり、いつかは過ぎ去る。

幸運なことに、私の人生の途中で、私は常にそれをモットーとして受け入れた。「人生のさまざまな状況に決して同一視してはならない。」

私の子供時代のことがマインドに来了。私の地上の両親は離婚していたため、私たたち大きな家族の弟たたちはみな、苦しまなければならなかつた。私たたちは家長と共に残され、私たたちの生みの母親を訪ねることは禁止されていた。しかし、私たたちは彼女を忘れるほど恩知らずではなかつた。私は常に、私についてきた弟と一緒に家から抜け出していた。私たたちは彼女を訪ねていき、家に帰って来た。しかし私の弟はとても苦しんだ。なぜなら彼はとても小さかつたので、帰りには疲れてしまい、私は彼を背中に担がなければならなかつた。彼はよく、苦々しく泣き、こう言った。「今家に帰ったら、お父さんが僕らを叩くんだ。お父さんは僕らを殴るんだ。」私は彼にこう答えた。「全ては過ぎ去る、全てが過ぎ去ることを覚えておくんだ。」

私たちが家に着くと、私たちの地上の父親は確かにひどい激怒に満たされて私たちを待っていて、彼は私たちを鞭打った。そして、私たちは部屋に寝に行った。しかし、私たちがベッドに入った時に、私は弟にこう言った。「わかっただろ。ことは過ぎ去った。全てはすでに過ぎ去ったって、納得したか。」

ある日、私の父が、私が弟にこういつてるのを聞いていた。「全ては過ぎ去る。あれはすでに過ぎ去った。」そしてもちろん、きわめて怒った私の父は、持っていた恐ろしい鞭を再び掴み、私たちの部屋に入り込んできてこう言った。「そうか、全ては過ぎ去るんだな、この悪党たち。」そして、私たちはもっと恐ろしい殴打を受け、そして、私たちを殴った後、とても静かに彼は出て行った。彼が言ってしまった後、私は、もう少し低い声で、弟に言った。

「わからないか。あれもすでに過ぎ去ったんだ。」つまり、私はそれらの場面に決して同一視しなかった。私の生涯で、私は状況や出来事、起こったことに決して同一視しないというモットーを取り入れた。なぜなら私はそれらの出来事、それらの場面は過ぎ去ることを知っていたからだ。あなたは、解決法を知らずに抱えている大きな問題のことをとても心配する。そして、それはすでに過ぎ去り、完全に別の場面がやってくる。それなら、なぜ私たちは心配しなければならないのだろうか。もしそれが過ぎ去らなければならないのであれば、心配する目的は何だったのだろうか。

あなたが人生のさまざまな出来事と同一視する時、あなたが多くの間違いを犯す。もしあなたがいっぱいの酒と同一視したら、あなたは酒飲みの友達のグループに誘われ、最終的に酔ってしまう。もしあなたがある瞬間異性に同一視したら、あなたは最終的に性の悪用をしてしまう。そしてもしあなたが、あなたを傷つける言葉の侮辱者に同一視したら、あなたも最終的に侮辱してしまう……。あなたは、見た目は真剣な人々である私たちが、最終的に侮辱するこが正気の沙汰だと思うか。それが正常だと思うか。もしあなたが、例えば全員が激しく泣いている涙のセンチメンタルな場面と同一視したら、あなたは最終的に少し涙を流すだろう。他者が、彼らがそれを好むからと言って、私たちをそんな風に泣かせるのは正しいと思うか。

私があるあなたに話していることは、もしあなたが自分自身を発見したければ必要不可欠なことである。もしあなたがある場面に完全に同一視すると、それはあなたが自分自身を忘れてしまったことを意味するため、それは必要不可欠なのである。あなたは自分がしていた仕事を忘れ、そしてあなたは自分の時間をみじめな方法で無駄にしている。

人々は自分のことを完全に忘れる。彼らは自分自身の深遠なる内なる「存在」を忘れる。だから、彼らは状況と同一視するのだ。人々はその理由により、普通眠りながら歩く。なぜなら、彼らは彼らを取り囲む状況と同一視しているからだ。そして彼らは皆、私の本、『心理革命』で私が言った、彼ら自身の「心理の歌」を持っている。

あなたが突然、あなたにこう言って来る人に出会う。「私の人生で、私はこれとこれとこれをしなければならず……。私は泥棒に盗まれ、私は金持ちで、私は詐欺に会って、ジョン・ドー（\*訳注：“山田太郎”のような、どこにでもいる人の意。）が私を騙した悪党で……。」つまり、彼は彼の心理の歌を歌うのだ。十年後、あなたはその同じ人に出会い、そして彼は彼の同じ「歌」を繰り返す。それが彼の「心理の歌」である。彼は、彼の残りの人生ずっとその出来事に同一視し、そのような状況で、人がどうやってエゴを溶解することができるだろうか。もしあなたがそれを強くしていたら、どうやって溶解することができるだろうか。

あなたが同一視する時、あなたは「我（複数）」を強化する。もしあなたが喧嘩に同一視すると、あなたは最終的に他者を殴ってしまう。ボクサーの話がマインドに浮

かんだ。それはアメリカで敵と戦っていたチャンピオンだった。最終的に観衆が皆、きわめて狂ってお互いを殴りあい、彼らは皆お互いを殴り合っていた。彼らは皆ボクサーに代わってしまった・・・。

同一視が何か観察しなさい。私は突然、ある女性を見た。彼女はその中で役者が泣いている映画を見ていた。まあ、彼らはもちろん泣いているふりをしているのだが。しかし、その観ている女性も最終的にひどい悲嘆で泣いてしまった。その映画に同一視した哀れな女性は何をしたか。彼女は、その映画のヒーローやヒロインに同一視した時、新しい「我」を作ってしまった。彼女は彼女のうちに、彼女の意識の一部を盗んだ新しい「我」を作ってしまったのだ。もしその人が眠っていたら、彼女はさらに眠り続ける。なぜか。それは、同一視による。それは明らかである・・・。

人々はテレビの前に自分自身を忘れ、彼らが見ているものに魅了される。そして彼らはひどく夢を見る。テレビが発明されて以来、家庭の統一は失われてしまった。例えば、夫が仕事に疲れて家の帰ると、彼の妻はもう腕を広げて彼を出迎えてはくれない。その女性がテレビを見ているため、男性はもうあの至福を感じない。男性は彼女を必要としても、彼女は忙しい。彼女はドラマシリーズを見ている。彼女は魅了されている。自然に、それは女性のせいだけではない。男性も、彼らがそこに見るもの全てに同一視している。妻は散歩に行きたがったり、彼女の夫と静かに話したがったりするが、男性は映画やサッカーに完全に同一視し、ばかげたジェスチャーや叫んだりまでして、自分の周りで起こっていることを完全に忘れる。そうすると、物事に同一視することがどれだけばかげていて、悲しいことかがわかるだろう・・・。

A handwritten signature in black ink, reading "Samuel A. Weor". The signature is written in a cursive, somewhat stylized script. There are some additional scribbles and lines below the main signature.

この著書は、著者（サマエル・アウン・ベオール）の意志により人類共有の遺産とされています。